日本最古級の九九一覧表 ―藤原京跡左京七条一坊出土―

2024.9.13 奈良文化財研究所
文化遺産部 歴史史料研究室

五九卌五	七八五十六	二八十六	三七廿一	三六十八	二五十
六九五十四	八々六十四	三八廿四	四七廿八	四六廿四	三五十五
七九六十三	二九十八	四八卌二	五七卌五	五六卌	四五廿
八九七十二	三九廿七	五八卌	六七卌二	六々卌六	五々廿五
九々八十一	**四九卌六**	**六八卌八**	七々卌九	二七十四	二六十二
					四々十六
					二々如四
					一々如一
					三四十二
					二四如八
					三々如九
					二三如六

九九一覧表復元図
（赤アミが残存部分。）

赤外線画像　カラー写真
（写真は原寸大。）

2001 年の飛鳥藤原第 115 次調査で見つかった木簡。長さ 162 ㎜、幅 12 ㎜、厚さ 3 ㎜。当初は、「九々八十一」の次を「四四十六」と読み、規則性がないため習書（文字の練習）と考えていた。

2023 年に最新の赤外線観察装置を用いて再検討をおこなったところ、「四九卌六」の可能性が高いことが判明し、右から左へ5行ずつ、段組にして書き進めた一覧表の、右上部分にあたる可能性が高まった。

「一々如一」まで書かれていた場合は、全体で8段組となり、現存する長さから比例計算すると、本来の長さは 326 ㎜程度に復元できる。

右から左へ書き進める九九の一覧表は、中国秦漢時代の木簡に多く、日本では 10 点弱の出土例がある。

この木簡の年代は、大宝元年（701）・2年（702）を中心とする 7 世紀末から 8 世紀初頭まで頃とみられ、実用的な九九の一覧表としては、日本最古級に位置づけられる。

飛鳥藤原第 115 次調査区（北西から。2001 年）

木簡出土地（南から。ピンク色のアミ掛けの場所から出土した。写真中央の赤い四角は藤原宮の範囲。）